

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607448		
法人名	有限会社 たんぼぼ		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	仙北市角館町藺田別当村211		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会		
所在地	秋田市旭北栄町1-5		
訪問調査日	平成22年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>信頼される事に依り、安心して心を開かれ、笑顔が自然に見られる生活環境を作る。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園風景が広がる自然豊かな環境のなか、古民家を改修した家庭的な雰囲気がある事業所で、違和感なく地域に溶け込み、利用者も明るく、和やかに生活している。 また、看取りに関する指針を整備し、利用者のかかりつけ医への通院支援のほか、協力医による月2回の往診、歯科医による毎月の往診など、医療面での連携体制を確保しており、利用者及び職員の安心・安全な生活を支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげている。	「信頼・安心・笑顔」を基本としており、利用者と職員がお互いに信頼することで安心し、自然な笑顔が生まれる生活環境づくりを理念に掲げている。 また、理念を事務室や居間、玄関、廊下等に掲示し、職員は常に確認しながら支援しており、毎月のカンファレンスでも日々のケア内容を課題にするなど、ケース会議等を通じて理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流している。	元々ある民家を改修しているため、事業所の納涼祭に地域の方を招待したり、近隣の方が畑に行き来する際に声をかけ、あいさつを交わすなど日常的な付き合いを保っている。 また、行政から「認知症なんでも相談所」として指定されており、地域の福祉拠点としての機能も担っている。	事業所が「認知症なんでも相談所」であることを積極的に地域に知らせ、気軽に相談できる工夫や認知症サポーター養成につなげるなど、相談所の機能充実に努めてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かしています。	2か月毎に開催し、利用者の状態や事業所の活動、ヒヤリハット報告など情報提供のうえ意見交換しており、利用者の帰宅時の送迎方法や居室網戸の開閉などに関する意見を改善につなげている。	会議の結果を介護保険事務所以外の構成メンバーにも報告するとともに、会議では外部評価結果についても課題とし、検討しながら改善に向けて取り組んでほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築くように取り組んでいます。	利用者の生活保護や障害の状況に応じて行政担当者と連絡、相談しながら支援しており、スプリンクラーの設置についても相談している。 また、行政から「認知症なんでも相談所」として指定され、地域の相談対応機能も担っている。	前回評価から行政との関わりを課題としているため、「認知症なんでも相談所」を通じた地域貢献やスプリンクラー設置に向けた助成など、今後も行政との連携に努めてほしい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	規程や重要事項説明書に身体拘束に関する方針を掲げ、家族等への理解と協力を得ている。 また、玄関にはセンサーを設置して開放し、居間にはカメラを設置して利用者の状況を把握している。	カメラ設置の目的を代表者、管理者、職員と話し合い、事業所内の死角を確認したうえで、むしろ居間ではなく玄関や階段付近など職員の目の届かない場所への設置と効率的な使用方法を検討してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映させています。	毎月の通信で利用者の状況を知らせ、面会時や電話で健康状態や出来事などを報告し、要望や意向の把握に努めている。 また、運営推進会議での家族の意見から、利用者の送迎方法や網戸の開閉に気を配るなど、生活の中で改善につなげている。	運営推進会議でヒヤリ・ハット報告をしているため、利用者及び家族にも報告し、再発防止と安心な生活の支援に努めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会を設け、反映させています。	ミーティングや申し送り、カンファレンスなどで話し合いや意見交換を行っており、代表者及び管理者は職員の意見を把握している。 また、意思統一が難しい状況があるため、「気づきノート」を作成して認識の共有に努めている。	「気づきノート」を効果的に活用し、職員の意見を柔軟に取り入れ、職員のモチベーション低下による離職防止と就労環境づくりに努めてほしい。 また、職員の意見や希望を取り入れた計画的な研修受講により、職種や経験等に応じて段階的にスキルアップできる仕組みを検討してほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングしていくことを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なことや要望などに耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めています。	夫の命日に職員と墓参りをする方や、定期的に家族へ手紙を出す方など、利用者が大切にしている場所や人とのつながりを把握のうえ支援している。 また、お盆には自宅への日帰りや泊りなど、利用者の状態に応じて、家族の理解・協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討している。	職員はできる限り利用者に声をかけ、利用者の言動から思いを感じ取り、利用者自身ができること、介助が必要なことなどを見極めながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成している。	利用者及び家族の情報を基に、計画作成担当者と担当介護職員、管理者とで介護計画を立案し、カンファレンスで検討のうえ全職員で共有しながら実践している。	業務日誌と経過記録など日々の記録が重複しており、職員が記録に追われている状況がみられるため、記録様式を統一するなど改善に向けて工夫・検討してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日1人1人記録を書き気づいた事などノートに記入したりしながら、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを楽しむことができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援している。	利用者及び家族の意向を踏まえ、同意を得たうえでかかりつけ医への通院を支援している。 また、協力医が月2回往診し、すべての利用者の状態を把握しているほか、協力歯科医が毎月往診し、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支援に取り組んでいる。	看取りの方針を明確にし、利用者及び家族の意向を確認しており、利用者の健康状態や認知症の状態に応じて、かかりつけ医や協力病院と連携しながら支援している。 また、他利用者が不安を感じたり、動揺しないよう配慮し、適切な対応について検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の方々に来てもらい救急救命の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練などを定期的に行い、全職員が身につけ地域との協力も目前に報告するなどしている。	消防計画に基づき、日中と夜間の年2回、消防署と隣家の協力を得ながら避難訓練を実施している。 また、水などの備蓄品を整え、隣家に非常ベルを設置するなど災害時等の協力体制を確保している。	スプリンクラーの設置に向けて早急に準備を進めるとともに、火災だけでなく地震や水害対策を想定した訓練実施についても検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の目を見てやさしくていねいな言葉で対応している。	職員が利用者一人ひとりと向き合い、生活歴なども話題にし、その方に合った声かけや自然な対応を心がけている。 また、利用者一人ひとりの座る席や落ち着く場所を把握し、利用者同士の人間関係にも配慮している。	個人ファイルを第三者の目にふれる場所に置いており、居間にはカメラを設置しているため、プライバシー保護の観点から保管、管理方法について検討してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	職員が髪を切ってあげたり、美容院の人に来てもらい、髪を染めたり、切ってもらったりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん達と会話をしながら野菜の皮むきや盛り付けなどをしている。	2～3人の職員による食事委員会を組織し、利用者の好みのメニューや味付けを考えたり、外食や出前の寿司なども柔軟に取り入れている。 また、手伝える方には盛り付けをお願いするなど、楽しい食事の雰囲気づくりに努めている。	利用者の体重増加がみられるため、行政や関係機関等と連携・協力しながら、利用者の栄養バランスを考慮した調理方法を検討するなど、適切な栄養管理に努めてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣に応じた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる人は歯磨きをし、入れ歯の人は外して洗い、うがいをしたりスポンジブラシで口の中の汚れを取ったりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にむけた支援を行っている。	利用者の状況に応じて尿とりパットやオムツを使用しているが、できる限りトイレでの排泄を促し、夜間はポータブルを使用して自立に向けて支援している。 また、「オムツ」の表現をしないよう利用者の自尊心に配慮し、昼食前なども早めの声かけ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそった支援をしています。	週3日の入浴を基本としているが、利用者の体調や希望、気候などに応じてシャワー浴や清拭で清潔の保持に努めている。 また、浴槽が深いいため複数の職員で対応し、安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換などの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は散歩に出かけたり、外にでて、皆でおやつを食べたりして外に出かけるようにしています。	利用者の状態や季節、天候に応じて、昼食を持参してドライブに出かけたり、散歩や草むしり、畑など日常的に外出する機会づくりに努めている。 また、バスをレンタルするなど、車イス利用の方も含め皆で外出できるよう声かけしながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり、使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が番号をかけてから電話で話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に応じた花が飾ってあったり、トイレも芳香剤を置くなどして工夫しています。	民家を改修した事業所で、居間の縁側には朝顔やすだれで室温、採光を調節し、利用者が気に入ったソファや椅子でゆったりと居心地よく過ごしている。 また、調理流し台を2台設置し、利用者とは会話しながら調理するなど、家庭的な空間づくり努めている。	1階トイレに2台の洋式便器があるが、布製カーテンで仕切られているため、利用者の目線、プライバシー保護の観点から工夫、改善を検討してほしい。 また、浴槽が深いため、利用者にとって決して安全とはいえないため、改修も含めた改善方法について、代表者を交えて検討してほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	玄関前や、外が見えるところにイスを置くなどして、利用者さんが快適に過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペットや衣装ケースなどを置いて過ごしやすいようにしている。	使い慣れたタンスや棚、テレビなど馴染みの物品を持ち込み、写真や位牌などを置いて個性ある居室づくりを支援している。 また、夫婦で利用する場合を想定し、あえてふすまで仕切っている居室もある。	ふすまで仕切られている居室について、現在は特に問題はないが、今後、利用者が不安を抱くことを想定し、プライバシーの確保に関して職員間で検討してほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように工夫しています。		